

問4 現行のMD-PhDコースに対して改善を求めている点

コースそのものに関して

- ・東大型の学部在学中に学位を取るコースも併設して欲しい。
- ・卒前・卒後一貫コースをもっと早く安定したものにしてほしい。現状ではまだ、これからどう変わるかわからないものであるという不安を感じる。
- ・他大学ではMD-PhDコースで臨床系の研究室にもいけるようになってきているところもあるので、一部臨床の研究室にも行ける方がいいかもしれない。
- ・MD-PhDコースに所属しながら、その実態がよく分からないことが不安。他のコース生との研究レベルの格差もよく分からず、上級生や研修医の多忙さとの共存が可能なのかといった情報の少なさが気になる。
- ・卒後どのようにMD-PhDコースが利用できるのか、いまいちはっきりしない。また、上級生からみて、MD-PhDコースに入りたいという下級生が教室の研究内容をしらずにやみくもに教室を訪れている姿も見受けられる。学生を受け入れる教室とそうでない教室があるのも学生には伝えられていない。

他大学との連携に関して

- ・東京大学大学院との相互単位認定などを早急に進めてほしい。
- ・他大学との連携

研究時間に関して

- ・5, 6年生でも研究とかする時間を多く確保できるようにコースに参加している人にはそれなりの対応をしてほしい。
- ・講義やポリクリの合間では、どうしても片手間になる。よって、Vivoを行うのは非常に困難となる。研究室の先生方も、学部生のスケジュールが把握できず、研究のスケジュールを立てにくいということがよくあった。
- ・医学科の過密なカリキュラムでは難しい問題ですが、研究する時間がカリキュラム内に欲しい。
- ・活動できる期間が実質ポリクリ前までであることを周知すべきだと思う。

学生の指導に関して

- ・各教室での指導内容にばらつきが多いように思われるため、その点を事前周知するようにしてほしい。各教室では、どのような実験手技を学ぶことができるか、あるいはこれまでの指導実績等。もとの受入数が多くても、すぐ「来なくなる」学生ばかりで成果が上がらなければ意味がない。
- ・コースに所属する学生の中で、研究室に実際に行っている人と行っていない人がいるが、区別はされているのか。
- ・卒前・卒後一貫コースもそうだが、コースに入る（あるいは卒業時に認定する）基準をもう少し厳しくするべきだと思う。現状では希望者全員を認めているせいで、いわゆる『幽霊部員』的なコース生がいるように感じる。

経済的な支援に関して

- ・初期研修と並行せず、後期研修とあわせて大学院に入学する場合にも奨学金がほしい。もしそれが実現されたら東京に出ずに群馬で進学することを前向きに考える人が増えると思います。
- ・海外学会に対しても補助が欲しい。
- ・もっと研究費を出してほしい。

事務的なこと（周知・案内・説明会）に関して

- ・専門科目の履修が可能なのとり方についてアナウンスがない。教授経由で連絡されることもあるようですが、構成員の多い研究室では教授がいちいちMDの学生の面倒を一人ひとり見ないので連絡事項は学生に直接送っていただきたいです。
- ・リトリートについて、まったく連絡や通知の行っていなかった教室があったように感じました。MD-PhDコースの学生が参加できるイベントや学会などの通知が、コースをとっているすべての学生に届くとよいと感じました。
- ・MD-PhDコースの入り方がわかりにくかった。（説明会では、コースを選択する利点や仕組みなどの説明はわかり易かったが、実際にどこで書類をもらいどこに提出すればよいかなどの説明がほしかった）
- ・申し込み手続きに関する説明が一切なく、学務課で聞いてもわからなかった。
- ・受講、単位認定可能な大学院講義の説明、シラバス・時間割等を案内してもらいたい。
- ・早い学年（1、2年）で一度説明会をしてほしい。